project 16

中央卸売市場移転事業 豊洲サイバーエンポリウムプロジェクト

PROJECT MEMBER

〈代表者〉	システム理工学部　生命科学科	教授：越阪部 奈緒美
〈構成員〉	大学院　理工学研究科	教授：古川 修
	システム理工学部　機械制御システム学科	教授：長谷川 浩志
	システム理工学部　電子情報システム学科	教授：井上 雅裕、間野 一則
	工学部　共通学群	教授：山崎 敦子

本プロジェクトは、2016年11月に中央卸売市場が江東区豊洲地区に移転するに際し、社会・文化・環境等といった要素について住民参加型の空間づくりを推進することを目的とした取り組みとして、2015年度4月より活動を始めている。これまで、東京都水産物卸売業者協会、豊洲地区自治会及びマンション管理組合や地元企業の集まりである豊洲2・3丁目まちづくり協議会などと協議を重ねたところ、豊洲新市場と住民を繋ぐ何らかの文化的な取り組みが必要ではないかとの多くのご意見をいただいた。そこで本プロジェクトでは、豊洲地区を新たな地域資源である新市場を中心とした“食育”“食文化”の街として創生すべく、幾つかの提案を検討した。具体的には、ICTを利用したエンターテイメント性を高めた豊洲新市場見学コースや豊洲新市場屋上を利用したビオトープや体験型菜園などを策定し、東京都・中央卸売市場事業部に提案した。また、東京魚卸協同組合が小・中学生とその家族向けに実施している様々な食育イベントに参加し取材を行った。これらの取材内容及び旬の魚料理レシピ・魚食と健康についての記事を掲載したアプリを開発し、豊洲商友会「豊洲アプリ」のコンテンツの一つとしてアップした。このツールを用いて“食育”“食文化”情報を地域住民に発信することで、地縁的なつながりのうすい豊洲地区のコミュニティーの和を広げ、地域の活性化を推進していく。

2015年度 活動の成果

教育

システム理工学専攻の必修科目であるシステム工学特別演習および大学院理工学研究科の産学・地域連携PBLを利用して、現在の築地市場の実態および豊洲新市場の開発動向についての調査を実施した。具体的には学生グループが東京都水産物卸売業者協会、豊洲2・3丁目まちづくり協議会を訪問して意見交換をするとともに、大学開放DAY!や豊洲水彩祭りにブースを出展し、地域住民に対してインタビューによる聞き取り調査を実施した。これらのデータをシステム工学手法を用いて分析したところ、豊洲新市場と住民を繋ぐ何らかの文化的な取り組みの必要性が抽出された。そこでプロジェクトの最終目標を豊洲地区を新たな地域資源である新市場を中心とした“食育・食文化”の街として創生することとし、そのための幾つかの方法を策定した。当該学生グループの活動を東京都・中央卸売市場事業部・東京都水産物卸売業者協会・東京魚卸協同組合に対して提案した。同時に東京魚卸協同組合が小・中学生とその家族向けに実施している様々な食育イベントを取材し、この取材内容及び旬の魚料理レシピ・魚食と健康についてなどの記事を作成した。これらの内容を掲載したアプリを博報堂プロダクツ㈱と共同で開発し、豊洲商友会「豊洲アプリ」のコンテ

ンツの一つとしてアップした。これらの活動を通じて、当該学生の社会人基礎力の向上を推進した。

駐車場屋上からみた築地市場

築地市場のまぐろ競り

研究

現在の築地市場の実態および豊洲新市場の開発動向についての調査を①東京都水産物卸売業者協会、豊洲2・3丁目まちづくり協議会を訪問しての意見交換、②大学開放DAY!や豊洲水彩祭りにおける地域住民に対するインタビューによる聞き取りによって実施した。このデータを分析したところ、豊洲新市場と住民を繋ぐ何らかの文化的な取り組みの必要性が抽出された。そこで本年度は、豊洲地区住民に対して“食育・食文化”情報発信ツールの開発を目標に掲げた。また発信する内容について、収集した情報をもとに検討したところ、食育イベント情報や和食・魚・野菜の栄養情報およびレシピが抽出された。そこで食育イベントについては、東京魚卸協同組合が実施している“カウントダウン築地見学会”および“美味しい魚給食事業”を選択し取材を行った。また健康情報については魚油n-3系脂肪酸摂取と健康維持増進の関連性について調査を実施した。一方、発信ツールとしてアプリを想定し、博報堂プロダクツ㈱と共同で開発を実施し、豊洲商友会「豊洲アプリ」のコンテンツの一つとしてアップした。

豊洲商友会「豊洲アプリ」

社会貢献

- 第9回大学開放DAY! 2015年6月7日(日) ブース出展
- 豊洲水彩まつり2015 2015年9月12日(土) ブース出展

築地市場について様々な調査を実施したところ、それぞれの団体で“食育”に対する試みがなされていることがわかった。特に東京魚卸協同組合が実施している“カウントダウン築地見学会”および“美味しい魚給食事業”は小学生およびその家族を対象としており、その活動に参加し一緒に体験することで、食育の重要性を改めて見直した。今後はこれらの活動の教育的効果について定量的に観察する。

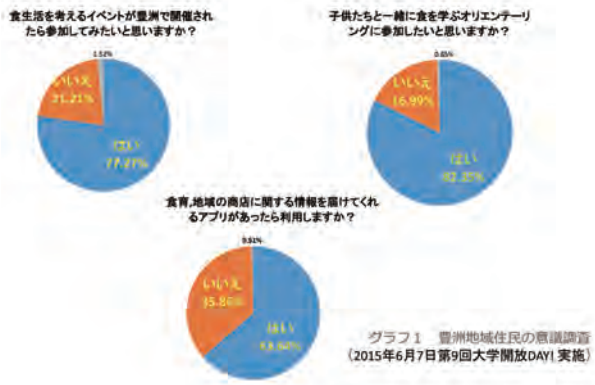
カウントダウン築地見学会

美味しいお魚給食事業

中央卸売市場移転についての地域の意見集約

2016年11月に中央卸売市場が江東区豊洲地区に移転するに際し、社会・文化・環境等といった要素について住民参加型の空間づくりを推進することを目的とした取り組みとして、2015年度4月より活動を始めた。2015年6月7日に行われた第9回大学開放DAY!や2015年9月12日実施の豊洲水彩祭りにブースを出展し、地域住民に対してインタビューによる聞き取り調査を実施した。また東京都水産物卸売業者協会、豊洲地区自治会及びマンション管理組合や地元企業の集まりである豊洲2・3丁目まちづくり協議会などと協議を重ねたところ、豊洲新市場と住民を繋ぐ何らかの文化的な取り組みが必要ではないかとの多くのご意見をいただいた。そこで本プロジェクトでは、豊洲地区を新たな地域資源である新市場を中心とした“食育”“食文化”の街として創生すべく、幾つかの提案を検討した。

洲新市場全体イメージ
（東京都中央卸売市場　新市場整備部HPより引用）



豊洲地域住民の意識調査
（2015年6月7日第9回大学開放DAY!にて 実施）

市場活性化のための提案

豊洲地区を新たな地域資源である新市場を中心とした“食育・食文化”の街として創生すべく、まず新市場活性化のための提案を検討した。築地市場は開放型であったことから間近で「競り」や「仲卸」を見学することができ観光資源となっているが、豊洲市場は閉鎖型であり二階部分に見学通路が設けられているのみである。そのためエンターテイメント性を高めることを目的に、現在一部で行われている電子競りをスクリーンとタブレットを用いて体験できる競り体験コーナーや、屋上の緑化計画と連動した屋上ビオトープや体験型菜園などを策定し、東京都・中央卸売市場事業部に提案した。

電子競り体験コーナー（イメージ）

屋上ビオトープと体験型菜園（イメージ）

“食育・食文化”地域創生のための提案

豊洲地区を新たな地域資源である新市場を中心とした“食育・食文化”の街として創生すべく本年度は、豊洲地区住民に対して“食育・食文化”情報発信ツールの開発を目標に掲げた。発信する内容について収集した情報をもとに検討したところ、食育イベント情報や和食・魚・野菜の栄養情報およびレシピが抽出された。そこで食育イベントについては、東京魚卸協同組合が実施している“カウントダウン築地見学会”および“美味しい魚給食事業”を選択し取材を行った。また健康情報については魚油n-3系脂肪酸摂取と健康維持増進の関連性について調査を実施した。一方、発信ツールとしてアプリを想定し、博報堂プロダクツ㈱と共同で開発を実施し、豊洲商友会「豊洲アプリ」のコンテンツの一つとしてアップした。

豊洲アプリ“食育コンテンツ”